

出張報告書

令和6年4月22日

市議会議長 松本 妙子 様

会 派 名 公 明 党

代表者氏名 南 加代子 (署名) (印) は記名押印

下記のとおり報告します。

記

1 目 的 DX戦略について

脱炭素社会づくりの推進に関する条例等について

2 出 張 先 佐世保市、唐津市

3 出張期間 令和6年4月17日（水）～18日（木）

4 出張者氏名 岩崎雅秋、米田貴志、友永 修、桑原佳一

5 てん末報告 別紙の通り

公明党（会派）行政視察レポート

報告者

岩崎 雅秋

視察先	佐世保市	テーマ	DX 戦略について
日 時	令和6年4月17日（水） 13時45分～15時45分		
市政の課題の解決に向けて、参考になると思われることと考察について			
本市、岸和田市は令和6年4月から岸和田市行政DX推進計画が出されたが、佐世保市では令和4年2月に佐世保市DX戦略が打ち出されています。DX推進本部のCDOに副市長CDO補佐官に外部人材を登用しICTガバナンス支援・戦略推進支援と事業部局には情報システム最適化支援・教育・研修等を行っているとの事。また、デジタルスコアリングを活用し、強み・弱みを客観的に可視化しデジタルリテラシーの向上に取り組んでいます。事業実績の一例は市と佐世保工業高等専門学校で共同開発したセンサー等のデバイスでイノシシを検知し、基地局・中継局を通じて利用者へ通知するものを開発。業務負担の軽減では、RPAやAI-OCR等を導入し、単純作業を自動化することで、軽減を図っています。また、オンライン申請システムを導入し、市役所に行かなくても完結できる手続きを増やしており、市民の利便性向上とともに、業務負担の軽減につながっています。令和5年度は、「書かない・待たない窓口」の実現に向け、現状課題の可視化を行い、令和7年度以降の導入を検討中。本市の推進計画では誰ひとり取り残されない、デジタルデバイド対策・情報格差対策による、人にやさしいデジタル化に取り組むとありますが、必要不可欠と考えます。			

公明党（会派）行政視察レポート

報告者

桑原 佳一

視察先	唐津市	テーマ	唐津市再生可能エネルギーの導入等による脱炭素社会づくりの推進に関する条例について
日 時	令和6年4月18日（木）10時00分～11時45分		
市政の課題の解決に向けて、参考になると思われることと考察について			
東日本大震災を契機にエネルギーに対する考え方を再考し再生可能エネルギーの導入等を推進するため、平成24年6月に「唐津市再生可能エネルギーの導入等による低炭素社会づくりの推進に関する条例」を制定した。制定から10年以上が経過し社会情勢等も大きく変化し令和5年度に「低炭素社会」から「脱炭素社会」へと条例を改正した。 条例に基づき再エネ計画を策定し実施した施策は、平成30年度に下水バイオガス発電設備 100Kw の導入、令和元年度に太陽光発電設備 40Kw の導入、令和2年度に太陽光発電設備 102Kw の導入、令和3年度に地中熱利用設備の導入、水素生成装置導入、令和4年度に廃熱利用設備導入、令和6年度に再エネ発電設備・蓄電設備を導入した。 評価としては条例により再生可能エネルギーの導入が進み建設等における経済効果があった。課題としては環境や景観等との調和、さらなる普及啓発及び理解促進、エネルギーの地産地消が挙げられる。 本市においても条例の制定、職員・市民・事業者への周知・理解を進めて、脱炭素社会づくりの推進が必要と考える。			